

野菜の需給・価格動向レポート(平成21年2月9日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

種類	1月の価格動向				2月の見通し				
	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価額(速報値)			主産地の概況	卸の見通し (上段:関東、東京青果類、下段:近畿:大果大阪青果類)			
		上旬	中旬	下旬					
葉菜	キャベツ	88.05	94	108	105	・入荷見込量:12,830t(98) ・主産地:愛知(65)、千葉(19)、神奈川(13)	関東の産地では生育はほぼ順調。平年よりM比率が多いが出荷は平年なみの見込み。	今年の秋冬物は平年を上回る価格展開となっているが、2月後半は愛知産が本格化することで軟調に推移、入荷は平年をやや下回り価格も平年を下回る予想。	
		79.74	104	114	112	・入荷見込量:3,300t(104) ・主産地:愛知(34)、大阪(20)、和歌山(12)、兵庫(12)		出遅れ分がずれ混んで入荷は前年並みを見込む。価格は前月の高値から下押しも平年よりは高めを予想。	
	ねぎ (関東:調製、関西:青ねぎ)	229.99	235	191	185	・入荷見込量:5,180t(105) ・主産地:千葉(43)、埼玉(34)、群馬(8)、茨城(5)	関東の産地では生育は回復基調にある。小菌核腐敗病等が心配されるが、順調な出荷が続いている。	今年は各産地ともに順調で出回りも潤沢。入荷は前年を上回り価格は平年を下回る見込み。	
		450.51	427	354	370	・入荷見込量:240t(104) ・主産地:徳島(35)、大阪(20)、高知(16)、香川(8)		—	
	はくさい	64.34	50	50	54	・入荷見込量:11,460t(98) ・主産地:茨城(60)、群馬(22)、兵庫(11)	関東の産地では作柄は並。結球状態は良い。出荷量は前年並みの見込み。	今年は1月と同様の展開が予想され、入荷は平年をやや下回り価格は平年並みの見込み。	
		76.33	63	64	74	・入荷見込量:3,800t(95) ・主産地:愛知(37)、兵庫(15)、宮崎(10)、熊本(9)、福岡(6)		冷え込み等で肥大鈍く、入荷は前年を下回る見通しから価格高を見込む。	
	ほうれんそう	307.66	419	405	414	・入荷見込量:1,850t(100) ・主産地:埼玉(27)、茨城(22)、千葉(21)、群馬(21)	関東の産地では干ばつ、寒波の影響が懸念されるものの、生育は概ね順調に推移している。出荷量は減少傾向にあり、微減となる見込み。今後、ハウス・トンネルの被覆ものの割合が増加していく。	今年は、降雪が1月前半に多く、出荷は後半から2月初め頃に谷間となり価格高になる見込み。2月入ると1月下旬の降雨で生育は回復し入荷は平年より多く価格は前年より安いと予想。	
		341.25	440	459	468	・入荷見込量:570t(90) ・主産地:徳島(71)、福岡(19)		生育の回復と出遅れ分のずれ混みで前年を上回る入荷を見込む。価格は前月の高値反動で下押しも平年に比べやや高値を予想。	
	レタス	259.83	285	243	256	・入荷見込量:7,300t(103) ・主産地:静岡(37)、香川(15)、熊本(9)、兵庫(8)、千葉(7)、福岡(5)	関東の産地では出荷最盛期は2月上旬からであり、12月下旬からの干ばつと寒さで小玉傾向となるが、定植は計画通りなので、低温が解消され降雨があれば出荷量は平年より多い見込み。	今年は昨年同様、西南暖地が伸び悩み、1月から高値傾向となったが2月には静岡が順調で、香川、兵庫の伸び悩みをカバーし入荷は前年を上回り、価格は平年並みだが昨年を下回る見込み。	
		238.68	300	244	246	・入荷見込量:1,100t(107) ・主産地:兵庫(43)、徳島(23)、香川(16)、熊本(7)		出回り回復見込みが冷え込み等による小玉傾向や作付減から入荷は少なめで推移し価格高を予想。	
たまねぎ	76.15	69	70	71	・入荷見込量:10,170t(100) ・主産地:北海道(91)	北海道の一部産地では2Lの発生が少なく在庫は前年を下回り、1月に比べ量的に減る見込み。	昨年と比べ、北海道産の品質が小振りであり、外食産業の引きが弱く、家庭でのカレー食の減退も理由、入荷は前年並み価格は平年より安い見込み。		
		76	77	76	・入荷見込量:3,400t(96) ・主産地:北海道(65)、兵庫(18)		平年作で入荷は前年を下回る見込みも、価格は荷動き鈍く平年を下回る予想。		
果菜	きゅうり	370.98	328	334	393	・入荷見込量:5,220t(102) ・主産地:千葉(24)、宮崎(21)、高知(16)、群馬(14)、茨城(12)、埼玉(7)	関東の産地では初期生育は日照不足により軟弱徒長気味のほ場もあったが、品質は平年並み。しかし、肥大はやや遅れ気味。作柄については並であり、平年同様の出荷数量となる見込み。	今年は、関東中心に生育順調で入荷は前年を上回り価格は昨年より安く平年並み。1月下旬から2月は引き合いが強く価格は高いと予想。	
		350.33	302	300	367	・入荷見込量:1,100t(101) ・主産地:宮崎(40)、徳島(24)、高知(21)、愛媛(8)		寒さの影響で大幅増は見込めないものの、生育は概ね順調で入荷は前年をやや上回る見通し。価格は前月に比べ小幅安も前年の高値に及ばず安値を予想。	
	トマト	332.60	402	388	395	・入荷見込量:4,780t(98) ・主産地:熊本(32)、栃木(15)、愛知(12)、千葉(6)、福岡(6)、群馬(5)、静岡(5)、宮崎(5)	関東の産地では促成長期どりは、着果数に地域やほ場でバラつきがあるが、着果・果形とも良好で生育はほぼ平年並。冬春どりは順調に生育している。年内に葉かび病、灰色かび病の多発ほ場も見られたが、現在の病害の発生は少ない。	昨年は前半に入荷減、後半に急増といった需給のアンバランスが原因で価格は伸び悩んだ。今年は厳冬期を避けた作型が増えて入荷は昨年を下回り、価格は平年並みを見込む。	
		311.06	369	352	360	・入荷見込量:910t(95) ・主産地:熊本(53)、福岡(14)、愛知(11)		出遅れを回復見込むも冷え込みや日照不足等で入荷は平年を下回る見通しで価格高を予想。	
	なす	389.03	341	387	438	・入荷見込量:2,150t(100) ・主産地:高知(61)、福岡(19)、佐賀(6)	四国の産地では一部で蜂の動きが悪く結実不良になっているが木の状態は良く1月後半に好天となれば1月下旬から2月上旬にピークがくると予想され、2月については前年並みかやや平年を下回る見込み。	今年は、1月が谷間で少なく、2月には回復して昨年を上回り、価格は平年より高い見込み。	
		397.74	336	386	433	・入荷見込量:390t(110) ・主産地:高知(28)、熊本(26)、福岡(16)、岡山(16)、徳島(6)		出回り徐々に回復に向かう見通し。前年を上回る量の入荷を見込み価格安も、平年に比べれば高くなる予想。	
	ピーマン	501.13	481	624	705	・入荷見込量:1,110t(95) ・主産地:宮崎(38)、茨城(25)、高知(22)、鹿児島(13)	関東の産地では株の生育は順調であり、品質・肥大状況についても良好となっている。アザミウマ類、うどんこ病の病害虫の発生が若干みられるが、出荷に影響する被害はない。	今年は茨城の春物が遅く、宮崎の作付減少もあり、入荷量は昨年を下回り価格は平年と比べ高い見込み。	
		467.19	452	570	655	・入荷見込量:230t(99) ・主産地:宮崎(45)、高知(35)、鹿児島(13)		冷え込み等により前月に引き続き入荷は伸び悩む見通しであるが、前年よりはやや多めを見込む。価格は前年の高値には及ばず価格安を予想。	
	根菜	だいこん	83.19	56	64	73	・入荷見込量:12,360t(100) ・主産地:神奈川(59)、千葉(28)	関東の産地では品質は良好。播種期の9月中旬に降雨があり播種出来なかった生産者が春だいこんに移っている。(2月中~3月収穫)平年よりL比率が多い。出荷は平年並み。	今年は、1月中下旬の降雨で肥大し、東京市場の入荷は前年並、価格はほぼ昨年並みで平年を下回り、全国的に作付けが減っており、厳冬となれば出荷が少なく更に価格の上昇も想定される。
			84.70	64	67	75	・入荷見込量:3,100t(96) ・主産地:徳島(43)、長崎(20)、和歌山(17)、香川(6)、鹿児島(6)		作柄は回復したが出回りはやや少なめ。冷え込みも手強い需要も出て前年並みの入荷を見込み価格高を予想。
にんじん		96.24	109	108	105	・入荷見込量:6,670t(97) ・主産地:千葉(73)、埼玉(13)、茨城(9)	関東の産地では出荷は11月上旬から始まっており、一部で青首、しみ等が見られる。初期生育不良の影響から肥大は今ひとつ。年内遅れていた品物が出荷されており、今後は前年を上回る出荷量となる。	今年は2月に入っても1月と同じペースで、四国の産地の前進もなく、入荷は前年を下回り、価格も前年を下回るが平年より高い見込み。	
		104.73	104	104	99	・入荷見込量:2,200t(102) ・主産地:鹿児島(56)、愛知(19)、長崎(14)		鹿児島産の出遅れや愛知産の作柄不良で全量は前年を下回る見通しから価格高を予想。	

種類	1月の価格動向				2月の見通し	
	(参考)保証基準額の算定となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格(上段:関東、下段:近畿)(速報値)	上旬	中旬		下旬
いも	さといも	217.95	212	207	201	・入荷見込量: 950t(103) ・主産地: 千葉(37)、埼玉(36)、輸入(6) 関東の産地では、出荷は9月下旬から始まっているが例年より遅れている。収量は多いが、一部に丸し、ひび、青芽、だるま(二次成長)が見られる。今後の出荷量は昨年より多い見込み。
		219.65	336	231	216	
ばれいしょ	ばれいしょ	88.17	97	98	98	・入荷見込量: 9,160t(98) ・主産地: 北海道(70)、鹿児島(21)、長崎(8) 北海道は生産量は前年並み。2月も計画どおりで1月とほぼ同程度の販売となる見込み。
			95	94	97	

1) 平均価格は、過去9年間の中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)。
 2) 旬別平均販売価格の青は保証基準額を上回るもの。赤色は下回るもの(消費税は除く)。
 3) コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人等からの聴取りをもとに機構が作成したものである。

2 野菜の需要動向

家計調査でみると、12月の1人当たりの生鮮野菜の購入量は、5,145g、対前年比99%となっているが、購入金額については、1,869円、対前年比100%となっている。
 また、小売物価統計によると、12月のはくさいの小売価格は過去5年平均比111%、だいこんは同109%となっている。

1 生鮮野菜の購入量及び金額

年	平成20年		平成19年		過去5年平均	
	購入量(g)	金額(円)	購入量(g)	金額(円)	購入量(g)	金額(円)
1月	4,341	1,479	4,148	1,487	3,981	1,524
2月	4,471	1,582	4,279	1,447	4,218	1,566
3月	4,763	1,735	4,674	1,629	4,527	1,692
4月	4,896	1,786	4,904	1,794	4,667	1,775
5月	5,020	1,876	5,215	1,891	5,068	1,876
6月	5,026	1,878	5,081	1,827	4,955	1,860
7月	4,446	1,673	4,488	1,700	4,391	1,681
8月	4,392	1,619	4,392	1,766	4,257	1,648
9月	4,934	1,763	4,784	1,807	4,678	1,730
10月	5,437	1,829	5,151	1,870	5,110	1,814
11月	5,036	1,601	4,969	1,632	4,832	1,576
12月	5,145	1,869	5,194	1,869	5,041	1,779

資料:総務省「家計調査報告(二人以上世帯農林漁家世帯を除く)」

2 主要野菜の月別小売価格(東京都区部)の推移

月	はくさい		だいこん	
	平成20年	過去5年平均	平成20年	過去5年平均
1月	120	143	117	159
2月	123	151	125	167
3月	212	190	149	162
4月	256	242	140	182
5月	211	205	158	165
6月	199	198	144	151
7月	216	194	133	156
8月	206	229	154	165
9月	204	243	156	169
10月	213	196	180	175
11月	149	154	130	140
12月	128	116	130	119

注1:過去5カ年は平成15~19年
 注2:12月の値は、確報値

資料:総務省統計局「小売物価統計調査報告」

3 野菜の輸入動向

中国からの野菜の輸入量は、平成17年には165万トンであったものが、19年には、87%の141万トンとなっており、さらに20年1~12月では対前年同期比81%の115万トンとなっている。
 12月については、植物防疫検査統計によると、たまねぎについては前年同期比83%、にんじん同86%、ねぎ同66%となっている。

野菜等の輸入数量の推移について

区分	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	
				前年比	前年比
生鮮野菜	1,114,274	956,167	719,467	75	83
加工野菜	1,772,280	1,805,327	1,786,948	98	93
野菜輸入量合計	2,911,337	2,787,104	2,506,415	90	82
中国産野菜合計	1,653,854	1,621,939	1,413,583	87	81
中国産シェア	57	58	56		

資料:財務省「貿易統計」

主な野菜の輸入動向

品目	輸入先	(単位:トン、%)		
		(A)2007.12	(B)2008.12	(B)/(A)
たまねぎ	合計	17,069	14,195	83.2
	中国	14,404	13,031	90.5
	米国	2,664	1,163	43.7
にんじん	合計	2,901	2,502	86.2
	中国	2,757	2,429	88.1
	NZ	-	22	-
ねぎ	合計	4,643	3,044	65.6
	中国	4,641	3,042	65.5

資料:農林水産省「植物防疫検査統計」(2008.12は12月最終週現在で速報値である。)

4 トピック

「加工・業務用野菜産地と実需者との交流会」開催 結果 概要
 平成21年1月28日に東京都立産業貿易センター(浜松町館5階展示場)で開催した「交流会」の概要をご報告します。

- 出展者 59ブース(61団体)
- 参加者(来場者) 560名
 - 製造・加工業者 144名
 - 外食・中食業者 47名
 - 流通業者 221名
 - その他(生産者、行政、マスコミ等) 148名
- マスコミ取材
 - テレビ1社
フードボイス
 - 新聞社11社
 - ①日本農業新聞社 ②日本経済新聞社 ③日本食糧新聞社
 - ④日本種苗新聞社 ⑤食品新聞社 ⑥協同組合通信社
 - ⑦農業協同組合新聞社 ⑧農経新聞社 ⑨アグリリサーチ
 - ⑩萬昇堂 ⑪オフィスティーエム
- 今回の特徴
 - ・新規展示が、12ブース(3JA、9法人)と多かった。
 - ・生産法人の出展が多かった。
 - ・セミナーの評価が、非常に高かった。



暖房ほどほどお鍋でほかほか (鍋ほか推進プロジェクト) (<http://jpan.jp/?nabehoka>)

加工・業務用野菜産地と実需者との交流会in東京

「国産野菜をいかにして確保するか」

2009年1月28日(水) 10:00~16:00開催

東京都立産業貿易センター浜松町館 5階(東京都港区海岸1-7-8)
 主催:(独)農畜産業振興機構、農林水産省

加工・業務用野菜の産地、流通業者等59ブースが出展します。飲食料関係のバイヤーの皆様におかれましては、この機会に、是非ご来場頂き、産地との情報交換・商談にご活用下さい。本交流会への参加は無料ですが、商談等を目的にしておりますので、事前登録制とさせていただきます(登録フォームは裏面)。

9:45~10:00 オープニングセレモニー(主催者あいさつ)
 農林水産省生産局 (独)農畜産業振興機構 理事長 木下 真之

10:00~16:00 展示・交流会(58ブース)

10:45~12:00 ショートプレゼンテーション
 12:15~12:45 ベジ畑のご紹介

13:00~ マッチング促進セミナー ※セミナーの開催は、105席で先着順です。
 ①13:00~13:45 (株)サラダクラブ 専務取締役 金井 順 氏
 「サラダクラブと国内野菜産地との取組」
 ②14:15~15:00 (株)イトーヨーカドー 販売事業部長 戸井 和久 氏
 「農業生産法人の設立と農場運営・販売戦略」

15:10~15:40 ショートプレゼンテーション

出展者一覧

【生産者団体】 愛知県経済連、高知県園芸連、全農福岡本部、JA遠州中央、JAおやま、JAいるま野、JAふかや、JAとびあ浜松、JAにじ、JAあしきた、JA筑前あさくら

【生産法人】 園分青果、営農集団ファームホロ/(株)大金、(株)黄金崎農場、(有)サンボーファーム、(株)Tedy、(有)ヨシムラ、(株)誠和、(株)旦千花、ベジポート 有限責任事業組合、(株)和郷 さあやキッチン、バイオエコサイエンス(株)、豊作物語、農事組合法人(株)サラダボウル、(有)イズミ農園/(有)シェイクンガーム、(有)トリアー、(有)橋場農園、ミズ産業、かなもと青果(株)、J-アグリ選抜部会、西地食品(有)、農事組合法人忍の里、(有)丸浅苑、岡林農園、(有)コウヤマ、愛菜ファーム(株)

【種苗会社】 佐藤政行種苗、渡辺探種場、カネコ種苗、トーホク、トキタ種苗、野原種苗、日本デルモテ、武蔵野種苗園、みかど協和、サカタのタネ、横浜植木、雪印種苗、ツルタのタネ、福井シード、タキイ種苗、丸種、大和農園種苗

【流通】 飯山中央市場、エム・ヴィ・エム商事

【行政・試験研究機関】 早稲田大学社内システム工学研究所「食と地域環境研究室」いしかわ戦略作物プロジェクト、鹿児島市